

TCB

ハートフィールドとっとり
(財)とっとりコンベンションビューロー機関紙

Vol.41

平成24年3月13日発行



「日本の原風景が残る鳥取で、
また映画を撮りたい」

街角
インタビュー

映画監督 後藤幸一氏に 直撃インタビュー

「日本のふるさとの原型があると思いました。町の中央を流れている三徳川にも、人間の営む根源的なものを感じましたね」と、三朝温泉を初めて訪れた時の印象を語ってくださったのは、1978年「正午なり」で監督デビューされた後藤幸一監督です。

三朝町を舞台にした後藤監督の映画「恋谷橋」は、老舗旅館の娘が都会から戻り、故郷で自分を見つめ直すこ

とで自立していく物語。この映画のロケ地は公募で決定したのですが、なぜ三朝町に決まったかという、町長をはじめNPOの代表、実行委員が「非常に熱心で、この人達と一緒になら大丈夫!」と強く思われたそうです。

「風景として財産がある町で映画を撮るのに不可欠なことは、映画をつくる場と、生活の場との接点を見つけることです。核となるのは、やはり人で、たくさんの方の協力だけでなく、リーダーの強烈なエネルギーが絶対に必要です」と話された通り、NPOの代表と共に、町をあげての協力体制で映画

は完成しました。「試写会の時は、感無量でしたね。一緒に苦労した仲間がいるという感慨でいっぱいだったし、誇りに思いました」

撮影が終了してから約一年。久しぶりに三朝を訪れた監督は、「KAMIあかり」のイベントが来年も続くことを聞いて、「映画製作が終わっても、その映画にまつわるすべてを文化的財産として大事にされていることが、本当にうれしいです。ここに来ると、また鳥取で撮りたい気分になるなあ」と笑顔で語っていただきました。